

ノニルフェノールスルホン酸銅乳剤 ヨネポン	取扱メーカー： O A T, 米澤化学, 琉産 原体メーカー： 米澤化学
成分： ノニルフェノールスルホン酸銅……………30.0%	性状： 黒褐色可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第2石油類(水溶性)・危険等級Ⅲ

【品目特性】 ……………

- 展着性が良好で作物及び菌体への付着及び浸透性に優れる。果実、花及び葉に対する汚れがない。
- バクテリアに有効な銅剤であるため、水稻の種子消毒用として、もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病の防除が可能である。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

- 特に予防効果に優れるので、発病前から発病初期の作物に全面散布する。
- 稲に使用する場合下記の事項に注意する。
 - 種子消毒は浸種前に行う。
 - 発芽不揃い等の薬害を生じるおそれがあるので消毒した種もみは乾燥せずに浸種する。
 - 浸種処理の場合、もみと処理薬液の容量比は1：1以上とし、種もみはサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆする。
 - 吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥する。
 - 本剤の処理を行なった種もみを浸種する場合は、次の事項を守る。
 - 1) 浴比は1：2とし、停滞水中で浸種する。
 - 2) 水の交換は原則として行なわない。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがある時は静かに換水する。
 - 3) 河川、湖沼、ため池などでは浸種しない。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

- 夏期高温時に薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- 石灰硫黄合剤、マシン油乳剤、ジチオカーバメート系薬剤との混用はさける。
- 水稻の種子消毒に使用した場合、初期生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- ばれいしょの種いも消毒に使用する場合、萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるので、萌芽前に種いもを切断せずに処理する。
- 適用作物（きゅうり）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】 ……………

- 桑に散布した場合は、3日以上経過してから蚕に給桑する。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ノニルフェノールス ルホン酸類を含む 農薬の総使用回数
稲	もみ枯細菌病 ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病	20 倍	—	浸種前	1 回	10 分間 浸漬	1 回
	褐条病 苗立枯細菌病	20 ～ 30 倍				24 時間 浸漬	
	もみ枯細菌病	50 ～ 200 倍					
	褐条病 苗立枯細菌病	100 倍					
	ばか苗病 いもち病	50 倍					
	ごま葉枯病	50 ～ 100 倍					
	もみ枯細菌病 褐条病 ばか苗病 苗立枯細菌病	7.5 倍	乾燥種籾 1 kg 当り 30～60 <i>ml</i>			種子吹き 付け処理 (種子消毒 機使用)	
	いもち病 ごま葉枯病		乾燥種籾 1 kg 当り 60 <i>ml</i>				
	メ ロ ン	うどんこ病 べと病	500 倍			100 ～ 300 <i>ℓ</i>	
きゅうり	うどんこ病 べと病 斑点細菌病	500 ～ 800 倍	収穫前日 まで				
ズッキーニ	べと病	500 倍	収穫 14 日前 まで	3 回以内	3 回以内		
パ セ リ	うどんこ病 斑点病 軟腐病 アブラムシ類	700 倍					
こんにゃく	腐敗病 葉枯病	500 倍	収穫 30 日前 まで	7 回以内	7 回以内		
ばれいしょ	そうか病	50 ～ 100 倍	—	植付前	1 回	10 秒間 種いも浸漬	5 回以内 (種いもへの 処理は 1 回 以内、散布 は 4 回以内)
		25 倍	種いも 1 kg 当り 15～30 <i>ml</i>			種いも吹き 付け処理	
やまのいも	青かび病	50 倍	—			瞬間～ 10 分間 種いも浸漬	1 回
桑	枝軟腐病	500 倍	100 ～ 200 <i>ℓ</i>	収穫直後	5 回以内	散布	5 回以内
	縮葉細菌病			—			
ぶ ど う	晩腐病 黒とう病	100 倍	200 ～ 700 <i>ℓ</i>	萌芽前	1 回		3 回以内 (萌芽前は 1 回以内、 萌芽後は 2 回以内)
ば ら	うどんこ病	500 倍	100 ～ 300 <i>ℓ</i>	—	6 回以内		6 回以内